



教育ニュース

vol.7
2022.7.20

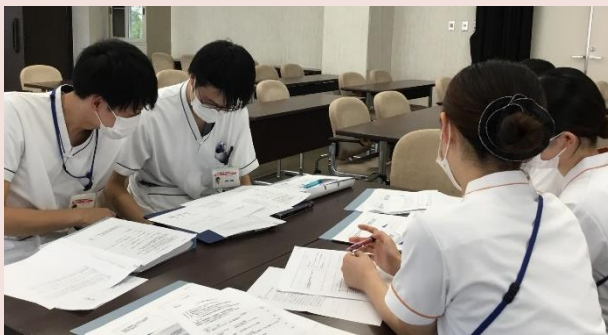
7月15日(金)レベルⅡ研修「倫理上のジレンマ」を開催しました

事例を用いてグループワークを行いました

事例紹介

50歳 男性 肺がん 建築の現場監督 独身

化学療法5回目の入院。副作用の倦怠感が強く体力の低下がみられていた。



①事例をよんでどう感じたか。もやもやすることは何か

- ・患者さんは副作用で辛くて化学療法をしたくないと言っているのに、主治医は採血結果から中止する必要ないって判断だけど、患者さんがかわいそう
- ・主治医や病棟薬剤師の考えが違うけどそのままにしているのか
- ・患者の辛い思いもわかるし、主治医の患者に頑張ってもらいたいという思いもわかる。どっちを優先したらいいのかわからない
- ・患者さんは今は副作用が辛くて、苦痛だけをとってほしいって言ってるけど、本当にそうなのかな

②倫理原則の対立はどこにあるのか

- ・自律尊重原則と善行の原則の対立
- ・無危害原則と善行の原則の対立

ロールプレイで患者の思いや考えを確認

看護師役の研修生は、ストレートに相手に伝わる言葉を選ぶことができていました。またメッセージを使い自分の言葉に責任を持つことができていました。また患者さんが今まで化学療法を頑張ってきたことも伝えることができており、アサーティブコミュニケーションが実践できていました。時々、患者さんの発した言葉に対して自分の思いが勝ってしまい「~だけど」と否定するような発言があったため、一部アサーティブでなかったのですが、自分の普段のコミュニケーションについて気づける機会となりました。

アサーティブとは、自分の要求や意見を、相手の権利を侵害することなく、誠実に素直に、対等に表現すること

③患者さんの思い、考えが分かってどうするか。患者へのケアプランは？

- ・先輩看護師に相談する
- ・患者さんの思いを多職種で共有し今後の方針を検討する
- ・患者さんの倦怠感緩和のためにケア内容を考える

OJTのお願い

研修生は自部署の倫理上のジレンマを3つ整理しアサーティブな対応について考え自部署で発表します。発表できる環境調整と、研修生から相談があれば支援をお願いします。